

平成 2 2 年 度

教 育 指 導 の 計 画

(最 終 反 省)

大 阪 市 立 天 王 寺 中 学 校

1. 学校経営の重点

目 標 : 「豊かな心」と「学習意欲」を育み、基本的な生活習慣を身につけさせ、たくましさ自立心を養う。

取組内容（指標）	達成状況	
① 校内研修を充実させ、指導法の改善や指導力の向上に努め、「確かな学力」の育成を図る。	A	A
② 基本的な生活習慣や心身の健康を基盤に、学校行事や奉仕活動、体験活動を通して「思いやる心」や「感動する心」「感謝する心」を育てる。	A	
③ 国際交流活動を通して国際理解教育を推進し、互いの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団を育てる。	A	
④ 家庭との連携を通して子ども達の理解を深めるとともに、地域との連携を通して学習環境を整え、一人一人を大切にされた教育を推進する。	A	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で行った研究授業と研究協議では、指導主事の指導助言をいただき、研修を深めることができ、「授業力」の向上に繋がった ・全校集会や学年集会、教職員と生徒との日常的な関わり等を通じて、基本的な生活習慣の育成に努めた ・今年度も中国上海とスイスオーバーヴィルの中学校との人的交流を行い、国際理解教育の推進に努めた。 ・担任を中心に、家庭との連携に努め、生徒理解を深めることができた。 		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校生活のあらゆる場面を通じて、「心」を育てる教育を推進していきたい ・国際交流活動を深化・充実させ、個性を尊重し合える集団の育成に努める ・「一人一人を大切にする教育」を行うためには、保護者や地域の協力が不可欠であり、そのためにも保護者・地域との連携を深めていきたい 		

2. 学習指導の重点

(1) 教科

目 標 : 自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る

取組内容（指標）	達成状況	
① 基礎・基本の定着、学力の向上を目ざし、指導法の工夫を図る	A	A
② 学習意欲を喚起するための学習材の開発に努める	A	
③ 支援体制の充実を図り、主体的に学習に取り組める工夫を図る	A	
④ 夏休みを利用したの補充学習の充実に努める	A	
結果と分析		
<p>少人数授業や T.T、習熟度別指導の導入、長期休業中の補充学習の充実など支援面での充実をはかり「確かな学力」の育成に努めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>自ら進んで学習に取り組もうとする意欲を喚起できるような学習材についての工夫・検討が必要である。</p>		

(ア) 国語

取組内容（指標）		達成状況	
①	教科書教材を中心に、内容を理解し、自分の意見を整理し、表現する力を養う	B+	B+
②	個々の能力に応じた多様な教材を用いて、国語に対する認識を深め、豊かな表現力、思考力、想像力、言語感覚を育む	A	
③			
結果と分析			
漢字や語句等、基本的な力の充実を図り、定着しつつある。			
次年度への改善点			
更に読解力を高め、自分の考えをまとめ表現する力を育てる指導法の工夫をする必要がある。			

(イ) 社会

取組内容（指標）		達成状況	
①	身近な問題を教材化することで、生徒の興味関心を引き出し、基礎学力の充実と定着を図る	A	A
②	グラフ図表などの読図・作図や統計処理等の基礎技能の習得を図ることにより、深く考え表現する力を養う	B	
③			
結果と分析			
・授業の中で身近な問題や時事問題等に触れる機会を多くとることができた ・教科書や資料集、新聞等の統計、グラフの分析にも取り組むことができた			
次年度への改善点			
・授業の中で、新聞記事やインターネット等の資料を、より積極的に活用する ・基礎学力を定着させる方法のひとつとして「小テスト」など、復習の機会をもつ			

(ウ) 数学

取組内容（指標）	達成状況	
① 教科書と並行して小テストやプリント学習を実施し、基礎学力の定着と充実を図る	B	A
② 全学年で、T. T、少人数授業や習熟度別授業を実施。より理解できる授業づくりを試み、学力の向上を目指す	A	
結果と分析		
T.T、少人数授業や習熟度別授業を実施することにより、個々に応じた指導ができ、生徒の学力を伸ばすことができたと思う。		
次年度への改善点		
家庭学習に進んで取り組めるような課題や教材を選び与えていきたい。		

(エ) 理科

取組内容（指標）	達成状況	
① 実験・観察を中心とした学習において、興味・関心を喚起し、学力の充実につとめる	A	A
② 原理・法則、ものの成り立ちについて身近なものに目を向けさせ、活かせる工夫を図る	A	
③		
結果と分析		
教科書の実験・観察だけでなく、演示実験や標本、写真などの活用をはかり、興味・関心が持てるように努めた。		
次年度への改善点		
授業内容と関わりのある日常生活の身近な題材・情報の提供に努めていく必要がある。		

(オ) 音楽

取組内容（指標）	達成状況	
① 基本的な記号や理論などを学ばせる	B	B
② 教材を精選して興味・関心を持たせ、合唱などに取り組むことにより、豊かな感性を育成する	B	
結果と分析		
<p>基本的な記号などは、音楽コンクールの課題曲などを使って、知りたい時をのがさずに指導しているが、まだ充分とは言えない。</p> <p>歌唱については、地声の少ない、のびやかな発声が定着してきており、合唱のテクニックなどもかなり高くなってきている。</p>		
次年度への改善点		
<p>意欲を持たせるために、より一層の教材の精選が必要である。</p> <p>基本的事項の学習に関しては、時期的・回数的な工夫も必要である。</p>		

(カ) 美術

取組内容（指標）	達成状況	
① 教材・教具を工夫し、表現の基礎的能力の定着を図る	B	B
② 美術作品などについて、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる	B	
結果と分析		
<p>①形、色、材料で表す感覚や、基礎的技能の定着に努めた。</p> <p>②鑑賞カードを通してお互いの良さや個性を理解しあった。</p> <p>3年はピカソ、2年は印象派の画家の作品を鑑賞した。</p>		
次年度への改善点		
<p>①生徒の意欲をより高める教材を工夫する。</p> <p>②鑑賞教材を研究する。鑑賞の機会を増やす。</p>		

(キ) 保健体育

取組内容（指標）	達成状況	
① 集団行動の大切さを身に付けさせ、あらゆる学校生活に生かせるようにする	A	A
② 生徒一人一人の体力と、各種目の技能を高める	A	
③ リーダーを中心に協力し助け合う態度を育てる	A	
結果と分析		
集団行動の意義を理解し、様々な学校生活の中で生かせてきている。 体育委員を中心に協力し合っている。		
次年度への改善点		
集団行動を、より学校生活の中で生かしていけるように努める。 より信頼されるリーダーを育成し、協力・助け合える集団を目指す。		

(ク) 技術家庭科

取組内容（指標）	達成状況	
① ものづくりを通し、自ら学び工夫する意欲を高める	B	B
結果と分析		
【技術】 工具、機械を正しく安全に使用するようくり返し指導したい。その上で、自分の作品を自分の力で最後まで作りきる大切さを学べるようにした。 夏休みの課題作品も含めて、自分で工夫し創造する意欲を持てるよう働きかけたい。 【家庭】 昨年度より実習授業を増やし、体感して学べる授業づくりにした。		
次年度への改善点		
【技術】 ・ 工具、機械を使用する上での更なる安全指導を行う。 ・ 作業への集中力を更につけることができるように工夫する。 【家庭】 ・ 実習器具、道具を正しく安全に、そして物を大切にすることを養う。 ・ 実習授業を多く取り入れ、生徒たちが意欲的に学習できる環境をつくる。		

(ケ) 英語

取組内容（指標）	達成状況	
① 基礎学力の定着に努める	B+	B+
② 英語に対する興味・関心を高めるよう、工夫を図る	B+	
結果と分析		
<p>題材や場面に応じて、補助プリントやカード等を作成・活用したり、小テストの実施により基本文の定着を図ったりした。また ALT との授業では、生徒の発話性や興味関心を高めるよう努めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>家庭学習につながるような教材の開発および指導法の工夫に努めたい。</p>		

(2) 道 徳

目 標 : 人間尊重の自覚を高め、思いやる気持ちを持ち、主体的に行動できる生徒の育成に努める

取組内容（指標）	達成状況	
① 道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間及びその他の活動との関連を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実をめざす	A	B+
② より効果的で多様な指導法、指導内容、教材資料についての研究を進める	B+	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・日々の生活全般に渡り、多くの機会に生徒の内面を育てる指導がなされていた。・道徳の時間に計画的に授業を行うことができるようになってきた。		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none">・学年によっては、特に前期に道徳の時間の確保が難しく、準備等がいつもぎりぎりになってしまう点・引き続き子ども達の内面を育てる機会を逃さず指導を継続していくこと		

(3) 特別活動

目 標 : 自主的に活動でき、さらに協力しながら規律ある行動ができる集団の育成に努める

取組内容（指標）	達成状況	
① 学年行事、学級活動に全員で取り組み、共に支えあうような学級集団の育成に努める	A	A
② 部活動に生徒が主体的に活動できるよう推し進める	A	
③ 生徒会活動・委員会活動を活発にし、生徒の自主性を育て、生徒会組織と学級との連携を密にする	B+	
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・学校行事等では、各学年で特色を出し、事前の取り組みが活発に行われた。教師の指導のもとで、生徒が積極的に活躍する場面が多くとれるよう努めた。・部活動では各顧問の指導のもと、各部長をリーダーとして自主的な活動ができるよう努めたが、まだ不十分である。・生徒議会における議会運営を活性化するために、反省会などを持ち、リーダーの育成に努めた。		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none">・リーダーの育成をさらにすすめる必要がある。・他人の痛みや思いをわかり合える集団作りを、さらにすすめていく。		

(4) 学校行事

目 標 : 周到な計画に基づき、充実した成果をあげる

取組内容（指標）	達成状況	
① 行事活動に積極的な参加ができるよう工夫を図る	A	A
② 地域の支援も含め、開かれた学校づくりの中で行事を進める	A	
③ 実施する各行事において、成就感を持たせる工夫を図る	A	
④ 行事を円滑に行うために、時間の有効活用を図る	A	

結果と分析

生徒たちが積極的に参加できることを視野に入れ、地域との連携・周到な計画のもと、保護者様からも行事に対する一定の理解が得られている中での実施が、充実した成果をあげることに結びついたと考えられる。

次年度への改善点

行事の円滑な実施と授業時数の確保との関わりにおける検討が必要である。

(5) 総合的な学習の時間

目 標 : 「確かな学力」を身につけさせ、社会の変化に対応できる力を育む

取組内容（指標）	達成状況	
① 自ら課題を見つけ、学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	B+	B+
結果と分析		
<ul style="list-style-type: none">・ 1年生は1学期に情報収集の手段としての図書館の利用方法や新聞の読み方についての学習をし、2学期は大阪の自然や環境を理解させるために、自然史博物館や植物園を利用した学習をした。3学期はコミュニケーション・発表力をつけさせる学習を行った。・ 2年生はI期に職場体験を実施した。II期からは「地域学習・大阪」「国際交流学習・スイス」「国際交流学習・上海」の中から各自がテーマを設定し、情報の収集を行い、レポートにしてまとめ、各自が冊子を作成した。・ 3年生は、卒業研究として、各自が設定したテーマに沿って資料を収集し、研究の概略と今後の課題を中間発表した。その後、最終的に各自がまとめ冊子を作成した。		
次年度への改善点		
今後の各学年の学習内容について考えていかなければならない。		

3. 生活指導の重点

<p>目 標 : ・基本的な生活習慣を身につけさせ、集団の一員としての自覚を持ち、 規律ある行動ができるようにする ・集団の和を大切にす豊かな心を育てる</p>
--

取組内容 (指標)	達成状況	
① 望ましい生活集団の確立のため、生徒一人ひとりの生活実態を把握し、計画的・継続的な指導に努める	A	A
② 生徒一人ひとりが集団の一員としての自覚を持ち、信頼によって結ばれた人間関係を育て、充実した学校生活を営ませる	A	
③ リーダーの育成に努める	B+	

結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに対し、計画的・継続的な指導を行うなかで、正しい人間関係を基にした、充実した学校生活ができるようになってきている。 ・リーダーの育成が十分にできていない。

次年度への改善点
<p>信頼されるリーダーの育成に努める。協力し、助け合える集団を目指し、よりよい信頼関係によって結ばれた人間関係を育てる。</p>

4. 保健管理・指導の重点

目 標 : 基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持増進につとめる

取組内容（指標）	達成状況	
① 健康に対する意識を高め、自律的な生活態度を養う	A	B+
② 環境に対する意識を高め、自らすすんで整備美化する態度を養う	B+	
結果と分析		
<p>保護者や教職員の評価に比べて、生徒の評価では「健康面」「環境面」とともに‘C：あまり当てはまらない’‘D：全く当てはまらない’と回答した割合が高く21～22%であった。この約5分の1の生徒が、もっと身近なこととして「健康」や「環境」をとらえ、日々実践しているという実感が得られるような工夫が必要である。</p>		
次年度への改善点		
<p>日常生活すべてが「健康」や「環境」に直結していることを理解させるために、よりわかりやすく繰り返して伝えること、指導を継続することが大切である。</p>		

5. 特別支援教育の重点

目 標 : 特別なニーズのある子どもたちが、まわりの子どもたちと共に学び共に生活することを通じて、地域社会で自立することを目指した教育を推進する

取組内容（指標）	達成状況	
① 特別なニーズのある生徒の自己決定権を尊重し、個々の状況に応じて、自立に必要な基礎的能力を養うため個別的指導を実施する	A	A
② 統合教育を推進し、特別なニーズのある生徒に対しての通常の学級での指導を充実する	A	
③ 人権教育としての「障害理解教育」を推進すると共に種々の行事や学級活動を通じてインクルーシブな集団の育成に努める	A	
④ 自立活動の指導の充実に努め、個々の課題に対する指導を計画的に実施する	A	
⑤ 職員研修やPTA活動を通じて、ICFなどの新しい障害観の啓発を進める	B+	

結果と分析

- ①今年度よりICFに基づいて「個別の教育支援計画」を作成し、保護者に開示、同意を得た後、「個別の指導計画」を作成し指導に取り組んだ。2学期懇談において指導の進捗状況を保護者に示し、3学期終了時に1年間の評価を示すことができた。
- ②入り込みによる指導を増やし、1年、3年在籍生徒全員の全授業時間の50%以上を通常の学級で過ごすという本校の目標を達成することができた。
- ③日常的な学級、学年での指導において、「障害理解」を進める指導を実施している。また、1年生の人権学習において、本校卒業生をゲストティーチャーとして招き、学習を進めた。
- ④自立活動の指導においては、教科指導との関連を考慮して、より効果のある方法を研究し、実践することができた。
- ⑤職員研修において、本校生徒のICFと支援計画を協議することを通じて、障害についての理解を深めることができた。しかし、今年度は保護者向けの研修を行うことができなかった。

次年度への改善点

- ①今年度はICF導入の初年度ということもあり、活用が充分ではなかった。来年度は春季休業中から取り組みを始める。
- ②日常の指導場面において、一般の生徒の「障害理解」を推進する指導を進める。
- ③支援学級の意義付けの指導など、学級をベースとした「障害理解」について検討を始める。
- ④支援学校や大阪市教育センターの研修会を活用し、指導技法の向上を図る。
- ⑤引き続き、様々な機会を活用して校区への情報発信に努める。

6. 研修の重点

目 標 : 生徒の実態や現在の教育課題など、ニーズに応じた研修を行う

取組内容（指標）	達成状況	
① 研修内容については、全教職員で共通理解を図る	A	A
② 校内研究授業を充実させ、指導力の向上に努める	A	
③ 研究・研修の成果を生徒の学習指導等に生かすように努める	A	
結果と分析		
<p>定期の校内研修、学期ごとの教科の研究授業の実施を通して、共通理解を図りながら、指導法、授業力の向上に努めた。</p>		
次年度への改善点		
<p>教育課題に応じた研修の実施が必要である。</p>		

努 力 目 標

- ・ 教室・廊下を美しく保ち、細やかな心配りができるようにしよう
- ・ 元気よくあいさつをしよう